



宗祇終焉記

伊地知文庫  
文庫20  
251





列島をめぐり人々を治むるに便すべしとてかたはけり  
しに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
然後の爲しに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
たつて其の如くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
しりしに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
らるるに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
志しに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
のに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
其國の人を治むるに悉くしりしに悉くしりしに  
まゝに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
おののち悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに

高井金蔵より云 かくて行きの十日に列島を  
比叡天よりして一地を治むるに悉くしりしに  
いくとて悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
家へ去りしに悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
又行も悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
各向も悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに

年ついでに高井金蔵より云  
け一層の次よ 高井金蔵より云  
乃を名へて又とて人々を治むるに悉くしりしに  
高のを名へて人々を治むるに悉くしりしに  
たれは悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
おののち悉くしりしに悉くしりしに悉くしりしに  
宗紙



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically on the right page of the open book. It appears to be a formal or semi-formal communication, possibly related to the historical context of the Meiji Restoration or the early modernization of Japan, given the use of characters like '藩' (domain) and '藩主' (domain lord).

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written vertically on the left page of the open book. It contains several lines of text, including what appears to be a date or reference to a specific event: '中二歳又各二年夷則晦日'. The script is consistent with the right page, suggesting a continuous narrative or document.

張りよに又まじはれ〜つなれ〜  
 着るもつらき耶 急候お昔の御詠ふり〜今御せら  
 ひえり〜るもせらほ 御山を〜〜 越〜ふ山はりい  
 る〜かふ入〜るもつらき人の口〜よ 御〜詠〜え〜し〜なま〜る〜  
 の國は隈い他園〜し〜所は山林〜き〜下あり〜定編を〜い  
 ぬこの寺を入相〜は〜ら〜ら〜急候音〜一日〜に〜ま〜か〜い  
 う〜の〜つ〜あ〜八月〜日〜の〜も〜も〜時〜〜一〜日〜音〜の〜あ〜一〜二〜入〜を〜御〜水  
 ち〜つ〜て〜清〜一〜枚〜る〜や〜梅〜候〜あ〜り〜て〜い〜ら〜り〜り〜ち〜と〜る〜も〜と〜ね〜と〜と  
 る〜一〜ま〜あ〜時〜一〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 茅場〜〜し〜し〜口〜井〜に〜蓮〜花〜盛〜ん〜と〜一〜つ〜の〜音〜一〜出〜給〜一〜る  
 のほ〜ち〜も〜し〜か〜か〜も〜も〜れ〜も〜も〜ち〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 ち〜に〜い〜ち〜〜い〜い〜か〜〜し〜〜い〜い〜し〜〜は〜見〜え〜園〜は〜十〜日〜よ〜さ〜ら〜急〜候〜

月〜の〜月〜と〜見〜え〜ぬ  
 ち〜も〜あ〜る〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 彦〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 く〜あ〜る〜更〜も〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 ち〜も〜あ〜る〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 ち〜も〜あ〜る〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 ち〜も〜あ〜る〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 ち〜も〜あ〜る〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 ち〜も〜あ〜る〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜  
 ち〜も〜あ〜る〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜一〜つ〜は〜ら〜ら〜〜

秋の月  
 氏親

宗紙  
 氏親

小萩原あさの海をいし一岡をまわす 宗長

はるかなる一帯乃ち一帯の月夜に人さすはるかなる  
なり石井月夜とあそびて一帯をまわす人も  
はるかなる一帯をいし

氏記

宗長とふはるかなる一帯をまわすはるかなる  
山崎北畑とあそびて一帯をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし  
はるかなる一帯をいし

又宗長とあそびて一帯をいし 宗長

はるかなる一帯をいし一帯の月夜をいし  
一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし  
一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし

一帯の月夜をいし一帯の月夜をいし







今も五世の名残ももおぼやかしく  
神代山脈も村々正徳の及香洞の  
信の流るる後信の流るる後信の流るる後

十二月七日

耻言

道達信

柴屋軒

宗長

け状湯書

昔は以上海と云ふ人等由漢可ぬ  
中更難述  
第百一の中と有ぬ

を流落すとも宗派異化朋友  
行の思志有するは同道と  
尚存の使に宗派其のゆす  
は乃一也

併おるや説意しあまのり  
又難圖也

あまのり  
みららありま



